

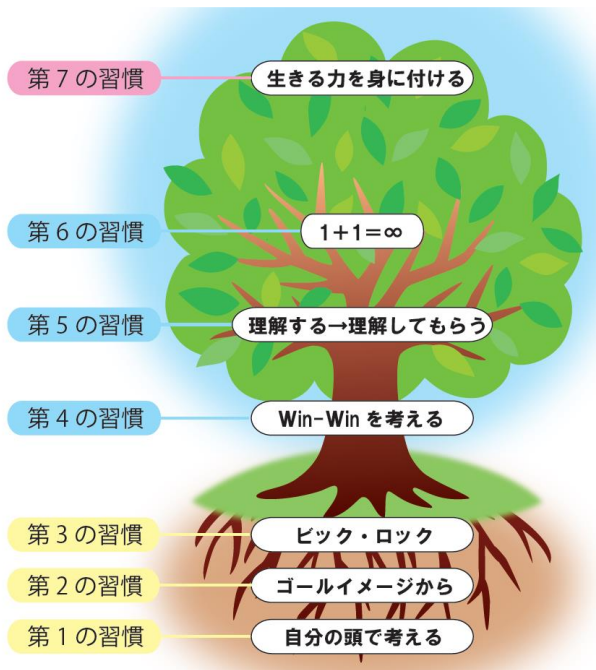


帝京大学小学校だより

帝京大学小学校

帝京大学小学校版 7つの習慣の木

帝京大学小学校 校長 石井卓之



フランクリン・コビー博士が提唱し、企業でも活用されていた「7つの習慣」を帝京小のバージョンにして、今年度から教室に掲示しています。

根幹は「自分の頭で考える」の第1の習慣です。誰かに言われて行うのではなく、自分で考えて主体的に行動できる力を身に付けることです。1年間を通して、予告なしの避難訓練が実施できるようになったのは、子どもたちが自分の頭で考えることができるようになった証です。

第2の習慣の「ゴールイメージから」は、学習や活動のときにはゴールを決めて、そのためにはどうすればよいのかを段階的に考え、実行することです。教師サイドから考えると、まずは全員が同じように進めていく単線型、次にいくつかの道筋を示して子どもたちが選ぶ選択型、最終的には子どもたちが自己決定をしていく複線型へと進んでいきます。途中で無理そうな場合は、道筋を変えるために自己決定をしていくことになります。

第3の習慣の「ビッグロック」は大切なことは後回しにせず、最優先で取り組むことが重要だということです。最初、入れ物の中に小石を入れてしまうと、後から大切な大きな石は入りません。まずは大切な大きな石を入れた後、隙間に小さな石を入れていくと多くの石が入ります。

第4の習慣の「WIN-WIN」は子どもたちの生活に定着してきている気がします。どちらかが勝つ・負けるではなく、どちらも勝てるよりよい方法を探していくことです。特別活動で大切にしている「納得解」に近いものだと考えています。

第5の習慣の「理解する→理解してもらう」は、他者意識の重要性です。「あの人は、私のことを分かってくれない。」という思考を転換して、「私からあの人のことを理解してみよう。その後で私のことを分かってもらおう」という考え方をすることで、トラブルが減っていきます。

第6の習慣の「 $1+1=\infty$ 」は相手のよい考えを自分の考えに取り入れ、新たな素晴らしい考えへと進化させることです。その過程では、シナジー（相乗効果）が発揮されます。これはチームビルディングにも繋がり、帝京大学グループが目指す、「実学」へと発展していきます。

そして最終的には、「2050年に世界を舞台に活躍できる力」となり、第7の習慣に繋がっていきます。これらの習慣に順序性はありませんが、第1の習慣から第3の習慣は土台となる力を育成します。

ご家庭でも、子どもたちに声をかけてみてください。「今のWIN-WIN?」と。

職員室の窓

1年生では小学校生活に慣れることを第一に考え、学年目標である①友だちと仲良くすること、②生活に必要な約束を学ぶこと、③自分で考えて行動することを子ども達と確かめながら、集団生活に必要な基礎を学んでいきます。学校は楽しいことも、少し乗り越えなければいけないこともあります。子ども達の成長を楽しみに、担任一同、力を合わせて指導していきます。



《1年担任》